
想像

鳩梨

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

想像

【コード】

N1865B

【作者名】

鳩梨

【あらすじ】

これは、つまらない お話 です。 いいですか？ お話 です。

(前書き)

一切の責任は負いません。ジャンルは推理に一応分類していますが、推理と言えるかどうかは【君】が決めるのです。これはあくまでお話 なのだから。

おや？

ああ、すまない。

余りにも退屈だったものだから、ついつい寝てしまった。

どうしたのかな？ 道にでも迷ったかい？

それとも、まさかとは思うが……、くだらないお伽噺でも聞きに来たのかな？

ほう、これはこれは。

とんだもの好きが居たものだね。

ああ、すまない。別に馬鹿にした訳じゃあないのだよ。

さあて、お喋りはこのくらいで、そろそろ始めようか？

ああ、そうだ。警告を忘れていた。

現実主義者、夢想家、遊び心の無い者。

君たちには不快感を与えるかもしれないね。

嫌なら、立ち去りたまえよ。別に引きとめはしないさ。

君たちの観測する【僕】にとっては、そのほうが楽ではあるのだしね。

はあ。 それでは始めるかね。

想像

「ここ、かね」

「はい。ムツシュ・カージユ」

「ここは古びたビルの屋上。そこに、このお話の主人公、「カージユ・オ・ルヴォール」は助手の「ミシエル・ジェネス・コール」と共に訪れていた。」

「ふむ。その割には、誰も居ないね？」

「はい。ムツシュ・カージユ。この事件は自殺と言うことで解決しましたから」

「……おや？ では何故、私はここに居るのだ？」

「はい。ムツシュ・カージユ。それはこの事件が自殺ではないからです」

ミシエルはそう言って無表情に頷いた。

その言葉を聞きカージユは溜め息をつきながらも屋上の検分を始めた。そのために来たのだから面倒でもやるしかない。

「ミシエル。時間がもつたいない。事件の概要を話したまえ」

屋上の隅を一見ぶらぶら歩いているだけのカージユにミシエルは口を開き、事件の概要を話し始めた。簡潔に。

「事件が起きたのは一昨日の夜のことです」

屋上の外縁には格子状の安全柵。さび付いてはいるが強度は十分だ。ただ、見た目は最悪だが。

「警邏中の二人の警官がこの下を通りがかった時、丁度上から人が落ちてきたそうです」

ビルの東西にはこのビルより少し小さい程度のアパートと、解体間近のビル。飛び移ろうと思えば出来ないでもないが、成功する確率よりも失敗する確率の方が大きそうだ。あるいは、この安全柵がなければ五分五分くらいなのだが。

「落下人は女性。このビルに務めていたそうです」

ビルの高さは五階。屋上を含めれば六階程度か。運が悪ければ十分に生存できる高さだ。

「警官の一人が慌てて屋上に上がったそうですが、そこには誰も居なかったそうです」

「ミシエル。屋上の鍵は常に開いているのかな？」

「いいえ。ムツシュ・カージユ。屋上の鍵は常に閉めてあります。鍵の管理はこのビル of 管理人。初老の男性。少なくともムツシュ・カージユよりは紳士だと思います」

「……それは、給料二か月分をいまだに払っていない私への嫌味かい？」

「いいえ。ムツシュ・カージユ。正確には二ヶ月と半分です。そして、嫌味ではなく、事実です」

「……なるべく早く払えるよう努力はするよ」

「精々ががんばってください。その台詞はコレで通算24回目です」
「……………」

カージユは泣きそうな顔になると口を閉じ、安全柵をまたいで外側の検分を始めた。

「ムツシュ・カージユ。自殺しても保険金は出ません」

「しないよ」

保険金が出ないことなんて承知していた。保険金を納めていないのだから。

屋上から下を見下ろすとそこには石畳の敷かれた路地。様々な人々が、様々な理由で忙しく、あるいは気だるそうに歩いている。その少し向こうには道路。最近ようやく出回り始めた車が大気を汚しながら、馬車に混じって走っている。心なしか、馬が迷惑そうにしている風に見えるのは、きっと気のせいではないだろう。

そんなことを思っていると、ふと何かが見えた気がした。カージユは柵を掴んで覗き込むようにしてそれを見た。

「ミシエル。なあミシエル」

「はい。ムツシュ・カージユ。なんですか？」

「これはなんだい？」

そう言っつてカージユが指を差した先にはプラスチック製の筒。それは屋上に突き刺さり下の路地まで一直線に延び、やはり路地に突き刺さっていた。

「はい。ムツシュ・カージユ。これは屋上に溜まった雨水などを排出するためのパイプです」

「こついつたものはどこにでもついているものなのか？」

「はい。ムツシュ・カージユ。引き籠もっていないでたまには自主的に外に出てください」

「面倒じゃないか」

「ムツシュ・カージユ。あなたは間違っています」

「何を今さら」

そう鼻で笑うと立ち上がり、検分を再開する。

殺風景な屋上。さて、別に自殺でも不思議ではないのだが、なぜ

ミシエルは自殺ではないと断言しているのか。

そんなに、気に食わないのだろうか？

「よし。ミシエル。警察に行こうか。異を申し立てよう」

「はい。ムツシュ・カージユ」

さあ、コレでお話は終わりだ。

どうだい？ 言っただろう？ つまらない、と。

あとは【君】らで勝手に空想したまえよ。

【僕】は、もう寝るから。
起こしてくれるなよ？

なんだい。

わかったよ。じゃあ、よく聞いてくれ。

名前には必ず意味がある。

それさえわかってしまえば、あとは二通りの想像しか出来ない。
そして、お話をよおく思い出せば、想像は一つだけになる。

あとはもう、本当に知らない。

こんどこそ、【僕】は寝るよ。

おやすみ……。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1865b/>

想像

2008年8月29日17時29分発行

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。